

## 日本陸連アスレティック・アワード2014 受賞者一覧

### 1. アスリート・オブ・ザ・イヤー「2014年においてその活躍が最も顕著であった競技者」

右代 啓祐 (スズキ浜松AC)

第17回アジア競技大会(仁川)十種競技優勝。同大会同種目で24年ぶりの優勝を果たした。  
2014日本選抜陸上和歌山大会で8143点、第98回日本陸上競技選手権大会(混成競技)で8308点と日本記録を連続更新。

### 2. 優秀選手賞「2014年において優秀な成績をおさめた競技者」

①谷井 孝行 (自衛隊体育学校)

第17回アジア競技大会(仁川)50km競歩優勝。3時間40分19秒の大会新記録で同種目日本人初の優勝を果たした。

②第17回アジア競技大会 4×400mリレー

- ・金丸 祐三 (大塚製薬)
- ・藤光 謙司 (ゼンリン)
- ・飯塚 翔太 (ミズノ)
- ・加藤 修也 (早稲田大学)
- ・高平 慎士 (富士通)

第17回アジア競技大会(仁川)4×400mリレー優勝。同大会同種目で16年ぶりの優勝を果たした。

### 3. 新人賞(本連盟1名、記者クラブ2名)「2014年の活躍が顕著であり、その将来が期待される競技者」

①本連盟選出1名 松永 大介 (東洋大学) / 1995年3月24日生 (19歳)

第15回世界ジュニア陸上競技選手権大会(ユージン)10000m競歩優勝。39分27秒19の大会新記録で、同種目日本人初の優勝を果たした。

②東京運動記者クラブ選出2名

(男子) 新井 涼平 (スズキ浜松AC) / 1991年6月23日生 (23歳)

第48回織田幹雄記念国際陸上競技大会で、自己記録を7m以上更新する85m48をマーク。第98回日本陸上競技選手権大会で初優勝。その後第17回アジア競技大会(仁川)で銀メダル獲得。更に第69回国民体育大会で、日本歴代2位の86m83をマークした。

(女子) 青山 聖佳 (松江商業高校) / 1996年5月1日 (18歳)

第98回日本陸上競技選手権大会の400mで、優勝を逃したものの松本奈菜子選手と高校生ワンツーフィニッシュを達成。第67回全国高等学校対校陸上競技選手権大会で200m・400m2冠達成。第17回アジア競技大会(仁川)400mで、52秒99の自己ベストで予選突破し、決勝5位。第69回国民体育大会400mで53秒03の大会新記録で優勝。100mも2位。100mから400mまで走れる能力に期待が高い。

### 4. 特別賞「陸上競技を通じた活動や活躍が広く社会に対して貢献したと認められた者もしくは団体」

室伏 広治 (ミズノ)

1995年の第79回日本陸上競技選手権大会から優勝を重ね、本年、前人未到の20連覇を達成。18度の日本記録更新、オリンピック・世界選手権大会でのメダル獲得等、長くトップアスリートとして活躍することを通じて、後に続く選手達に範を示すとともに、ハンマー投、更に広く陸上競技に対する社会的関心を高めた。